



# みゆき

小松市立御幸中学校

学校だより

NO. 12

令和2年9月29日

文責：校長 河南光昭

## 雄々しく戦い・・・

26日から28日にかけて小松市新人総合競技大会が市内各会場で開催され、御幸中健児の健闘が随所に見られました。いつもなら会場の声援と相まって熱戦が展開されるわけですが、今年は無観客試合のため、どちらかといえば選手たちの息遣いが伝わってくる熱闘でした。

ジュニア時代からの経験を生かして、一戦一戦勝ち進みながら自信をつかみ駆け上がっていた選手をはじめとして、緒戦から好調をキープして危なげなく勝ち上がっていった選手、よもやの敗退を喫してしまった選手、格上の相手にも食らいつき全力を



出し尽くして惜敗した選手、最後まで調子を取り戻せず悔しい思いをした選手等々、その表情には十人十色の姿がありました。

また、団体競技では、勝てる試合を逆転で落としてしまったチーム、シュート練習のように次から次へと浴びせられる中で必死にゴールを守ろうとする守護神、一丸となって笑顔を絶やさず一戦一戦闘い続けたチーム、声を出し続け試合の流れを何とか自分たちに引き寄せようと奮闘したチーム等々、結果はどうあれ、最後まであきらめず闘い続けようとするひたむきさも感じられました。

一方ではどの試合会場でも、本校選手たちの試合を待つ間の表情は、とても和やかな落ち着いた表情に見えました。コロナ禍にあっても試合のできる喜びとこの場を与えてくれた人々への感謝の気持ちをかみしめて、大会を楽しんでいるようにも思えました。

闘いは終わりました。結果も出ました。大切なのは次にどうしていくのか、ということです。勝ったにせよ負けたにせよ、その選手やチームの真価が問われるのはむしろこれからの取り組み方によると思います。勝った中に反省点を見出し、負けた中に次につながる長所を確認して、前に歩み続けてほしいと願っています。

